

忘れられた映画

202101

「泣きながら、笑いながら、
大丈夫でも、大丈夫でなくとも、
大丈夫。」

友人が、大変な状況をかかえている自分自身を励ますためにつぶやいているというラップのような言葉を真似して囁いてみる・・・「大丈夫。」と。

新年早々、緊急事態宣言が出て、予定されていた上映が次々に中止（延期）になってしまった。打たれ弱いヘボカントクは、ダウン寸前で佇む。

大変なのは自分だけじゃない。「エッセンシャルワーカー」と呼ばれる、医療をはじめ社会生活に欠かせない仕事に就いている方々を思うと、「不要不急」と言われたりする映画の仕事の片隅に居るオイラなんかは、まだまだ・・・とは思うけど。

自作『えんとこの歌』でも語られているように「痛み」は比べられないんだよな・・・。

中止（延期）を決めた上映が予定されていた日に、会場に足を運んで、知らずに観に来た方々にお詫びをするのも、カントクの大事な仕事だと思い、上映予定時刻に入口で待つ・・・。昨年から何度こんなことをくり返しただろう。誰も来ないと「ホッ」とする反面、世の中から忘れられた映画のように思い、哀しくなる。

まあ、自主製作・自主上映は、誰に頼まれたわけでもないのに創り、観てほしい、

と言ひ募ってるナリワイだから、もともと忘れられた映画に違いない。

けれども「一寸の虫にも五分の魂」。忘れられた映画にも、「五分の魂」はあるのだ。中止ではなく延期にして、必ずリベンジする。

大ヒット中のアニメ『鬼滅の刃』を観た。強い者が力を競う勧善懲悪の物語だった・・・「弱さ」にこそ力がある、と私は思うけど。違うかなあ？

我がヒューマンドキュメンタリーに通底する哲学のようなものがあるとすれば、「弱さの力」という考えかもしれない。

強さではなく「存在の弱さ」にこそ本当の力がある。他者の力を引き出す大きな力がある、という考えだ・・・。

“手助けの必要な「いのち」が生きて在ることが、共に生きる社会を創るのだ”という視点を、ずっと大切にきて来た。

「弱さの力」を描いた『えんとこの歌』をはじめとした我が「忘れられた映画」の傑作の数々は、ほとんど世の中から無視され続けてきた・・・クソ！！

けれども、忘れられた映画だからこそ、その「存在の弱さ」が、まわりの力を引き出す力を秘めているのかもしれない。

これからだ。力を貸してほしい・・・。

「弱さの力」は五分の魂。魂こそが、「いのち」を支えているのだから。

伊勢 真一